



## 安全管理セミナーを実施して

大分県中津市消防団



山国川の「みず」と耶馬の「もり」のめぐみを受け、「ひと」が育ち、  
癒され、たゆみなく「もの」がうまれる、「人にやさしい」まち“なかつ”

### 1 はじめに

中津市は九州北部に位置し、福岡県との県境にあり、大分県では大分市、別府市に次いで人口（85,923人・2013年1月31日現在）が3番目に多い都市であります。城下町中津は、中津城、福澤諭吉旧居、青の洞門、羅漢寺、などの文化財や歴史的な建造物、市域南部には景勝地の耶馬溪がある観光都市であります。

中津市は旧豊前国に当たるため、福岡県北九州地方（北九州市、行橋市、豊前市、築上郡、京都郡など）との結びつきが強く、福岡県からの通勤・通学人口が非常に多くなっています。また南部の山国町は中津市街地よりも、隣接の日田市の方が距離的に近いため、日田市との結びつきが強く、明治以前は、豊前國中津藩と天領日田代官の下にありました。

2004年（平成16年）末に、自動車の車体会社が中津市に進出したことにより自動車関連工場の集積が進み、現在では、関連の会社が40社あまりになっています。建設中の東九州自動車道が、2016年には椎田南IC（福岡県築上町）～宇佐IC

（宇佐市）が開通予定で、中津市内にも中津三光IC（仮称）が開設され、また、日田市方面に中津日田高規格道路も建設中で交通網の充実によりさらなる発展が期待できます。



中津城（奥平家歴史資料館）初代城主・黒田官兵衛孝高

中津市といえば旧来、福沢諭吉が幼少の頃育った福沢旧居、菊池寛の小説「恩讐の彼方に」でも有名な禅海和尚が手斧で掘った青の洞門、また紅葉で賑やかな深耶馬などでしたが、さらに昨今は、マスコミにもとりあげられています「から揚げの聖地・中津」、休耕田を利用した「コスモス祭り」として日本一を目指している三光やユニークな「かかしワールド」の山国なども有名になっています。

さらに豊臣秀吉の軍師として、秀吉の天下統一を実現させたと言われる戦国時代に活躍した武将で、中津城を築いた黒田官兵衛の生涯を描く「軍師官兵衛」が2014年のNHK大河ドラマに決定しました。(平成24年10月10日「軍師官兵衛」決定、NHK発表)

そのため、中津の街は官兵衛一色で賑わっています。今回の大河ドラマ決定を機に、多くの人の中津市に関心を持ち、観光に訪れてくれるよう、関係者や関係団体などと協力して、広報活動を行っています。



中津駅南口

## 2 『中津市消防団の沿革』

明治27年2月9日、勅令15号により消防組織を結成しました。

昭和4年4月20日、大分県下毛郡中津町を廃止し、中津市を置き、中津市消防組に改組されました。昭和14年4月1日、勅令「消防組規則」が廃止され、警防団に改組、中津市警防団となりました。昭和22年4月1日、消防組織法により、警防団を廃止し、消防団に改組され中津市消防団とな

りました。昭和43年3月26日、消防団条例を改正し、定員360名から283名に変更しました。平成17年3月、旧中津、旧下毛町村の計5箇消防団が合併し中津市消防団となりました。

## 3 安全管理セミナーを実施した団員からの感想

私は、今回初めてこの安全管理セミナーに参加しました。

今までは、小型ポンプ操法大会や消火訓練、消防団員の相互交流の場としてスポーツ交流などに参加しましたが、今回安全管理セミナーとして、外部の講師の方からの講演を聞くのは初めてでした。



元北九州市消防局長の吉原講師が「消防団の事故防止のために」という演題で講演されました。最初、吉原講師の講演を聞く前までは、火災現場での消火活動の中で、危険が多いので気をつけなさいとそのような話をされるかと思っていました。

講演を聞きながら自分は間違っていました。

まず日頃の消防団の活動の中で、多くの団員が



公務災害にあっていると聞いて本当に驚きました。そしてその大半が演習訓練時に約70%以上発生し、そしてその原因が、自己の健康管理が要因であることを聞き又、驚かされました。

私たち消防団員は、地域の人たちの人命や財産を守るために、まず自分が健康管理や体力づくりを日頃から行う必要があると思いました。

そして、これからは演習訓練の前に団員の健康チェックも必要だし、S-KYTで効率的な危険予知訓練や作業現場に潜む危険を瞬時に見抜く力も必要となると思いますし、消防団員の意識の向上がこれからは必要と感じました。

今回初めて外部講師の方の話を聞く機会を頂き、とても参考になったので、これからも続けてほしいと思います。

私は消防の研修で阪神、淡路大震災の被災地の北淡町に行ったことがあります。その当時の団長さんの話を聞き、早朝に地震が発生して、その日の午前中に行方不明者が判明したのは地元の消防団の活躍があつての事だということが分かり、とても感動しました。

それは、その家の家族構成や、早朝での発生という事で、どの場所で寝ていたかなど、地元の消防団員だからこそ出来た事が沢山あったからだと分かりました。

地域の消防団は本当に必要と思いました。

又昨年7月3日と14日の2度にわたって発生した北部豪雨災害、私は地元でこのような災害

は初めて経験しました。

最初は地元の分団の活動をしました。幸いにして地元では被害が発生しなかったのですが、耶馬溪地区は大きな被害が発生し、私は、ボランティアとして、数名の中学生と一緒に耶馬溪の下郷地区に行きました。暑い夏の時期での2日間の作業、一緒に頑張った中学生が消防団の活動を理解し将来消防団員になってもらいたいです。



#### 4 今後の取り組み

消防団員が、活動する現場には、様々な危険が潜んでいます。

安全管理の上では、想定外は通用しないと思います。よつて、安全に対する個人の意識の向上が必要でしょうが、その促進策、その処方箋として、今後の取り組みとして、消防基金が開催しているS-KYT研修や安全装備品整備等助成事業の活用も同時に活用して、消防団員の安全第一を目指し



た事故のない消防団を考えています。

団員全員（1,240名）が安全とは何か！安全あつての団活動となるまで、「S-KYT研修」などを続けていきたいと思えます。

#### 追伸、国土交通大臣表彰

昨年7月北部九州豪雨の洪水に際して、団員が一致団結して水害の防止に当り、その結果、国土の保全に尽くしたとの功績により授与されました。



黒田如水像 大分県立歴史博物館所蔵